

安心して暮らし続けるための 柏のまちづくり



編集：かしわ在宅医療啓発委員会
発行：東京大学高齢社会総合研究機構
柏市保健福祉部福祉政策室 制作：白玉社

【誌面に関するお問合せ】東京大学高齢社会総合研究機構
〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 工学部8号館703号室
☎03-5841-1661 FAX:03-5841-1662
info@iog.u-tokyo.ac.jp

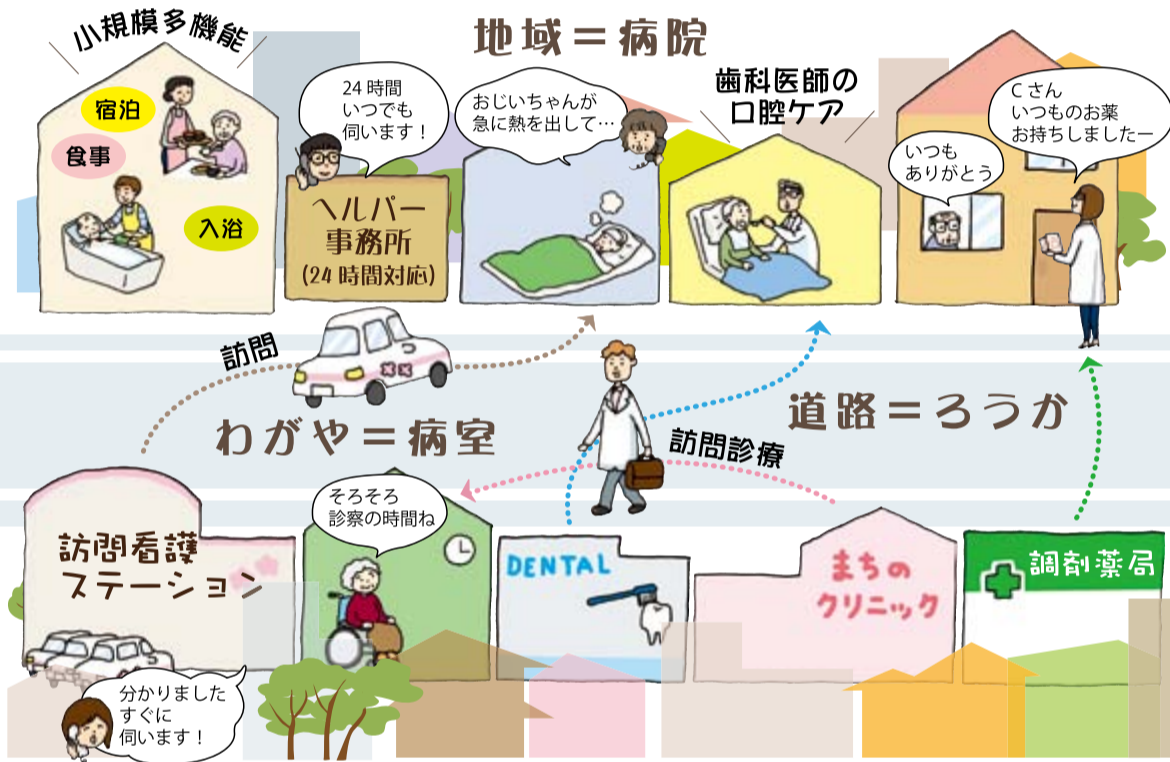
【在宅ケアに関するお問合せ】柏市保健福祉部福祉政策室
〒277-8505 千葉県柏市柏5-10-1
☎04-7167-1171 FAX:04-7164-3917
fukushiseisaku@city.kashiwa.lg.jp

柏市では、柏市医師会をはじめとした医療や介護の専門職種の方々が、市民とともに、「柏地域医療連携センター」を中核として運用する在宅ケアのシステムを作り上げてきました。第3号では今後、「かしわ」の超高齢社会を見据えたまちづくりが、どのように進んでいくのかお伝えします。

地域は変わる！ 医療や介護が必要になったとき… 柏プロジェクト

在宅でのケアが必要となったときに、例えていうなら、地域を1つの病院として、病院長の役割を地域の医師会長が、病院の事務長の役割を他の医療・介護の専門職の方々が介護保険制度の中でとりまとめる市役所の介護保険担当課が担えれば、自宅でも、病室にいるのと同じような医療や介護のサービスが受けられると考えています。柏プロジェクトはそのような仕組みづくりを進めています。

※3月1日号広報「かしわ」においても、取組みの実際をご報告しています。



知っておきたいキーワード

【地域包括ケアシステム】

最期まで住み慣れた地域で過ごすためには、医療・介護・予防・住まい・生活支援の5つの取組が一体的に進められることが効果的です。これらが切れ目なく提供される仕組みを『地域包括ケアシステム』と呼び、柏市ではこのシステムの実現を目指しています。



柏地域医療連携センターが開設します！



在宅医療・介護多職種連携をはじめとした地域医療の推進拠点となる「柏地域医療連携センター」が、平成26年4月1日からオープンします。

【施設の概要】柏市豊四季台1-1-118

- 1階 総合窓口（柏市福祉政策課）、研修室
- 2階 柏市医師会、柏歯科医師会、柏市薬剤師会等

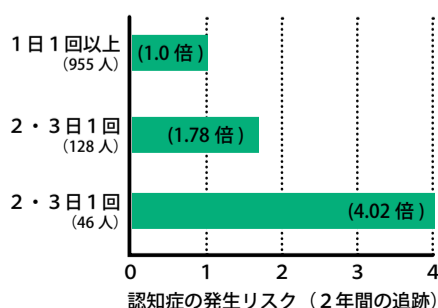
在宅ケア市民集会 2014

【日時】3月8日（土）13:30～16:00【会場】アミュゼ柏クリスタルホール
今年のテーマは「いつまでも住み続けられる柏のまちを考える～地域包括ケアシステムの構築～」。東大教授×柏市医師会長×柏市長が、安心して住み続けられる柏のまちづくりについて皆さんと一緒に考えます。市民主体の取組みについてもご紹介します。当日参加も可能です！

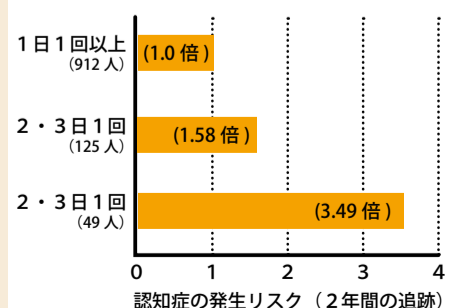
元気の秘訣は 運動と社会参加！

元気なうちは、なるべく外出して、友人・知人との楽しい時間を過ごしたり、地域で趣味のサークルやまちづくりに取り組んだり、積極的に社会参加をしていくことが大切です。こうした社会参加活動に取り組む人は、歩行障害や認知症の発生リスクが低いという調査結果があります。

■ 外出頻度と歩行障害の発生リスク



■ 外出頻度と認知症の発生リスク



(資料) 財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所【第93・95回老年会公開講座 第三のキーワード！】より

柏における在宅医療のシステムづくり

柏市医師会では、柏市、東京大学とともに「いつまでも地域で暮らすことができる社会」を目指して取り組んでまいりました。

まず、住民のみなさんが通院できなくなった時に、在宅医療をいつでも受けられるような体制を作るため、主治医・副主治医制というシステムを作りました。主治医は患者を主に診療し、診療できない時には副主治医が対応します。そうすることで切れ目のない在宅医療を提供することができるようになります。

また、いつまでも地域で暮らすためには、医療だけでは不十分です。介護など多くの専門職のメンバーの力が必要です。お互いに連携がうまくできるように、多くのメンバーが集まる会議や研修会を実施し、連携しやすい環境やルールを作っています。

平成26年4月から地域医療連携センターがオープンします。在宅医療の窓口が広がり、住民のみなさんがより身近に在宅医療を考えていただけるようになると期待しています。センターと全面的に協力しながらよりよい在宅医療を提供していきたいと考えています。



柏市医師会在宅プライマリケア委員会 委員長 織田暁寿



～終わり～

柏市社会福祉協議会
藤田さんの

ポイント
ワン アドバイス



男性は、退職すると生活の拠点（居場所）が“勤め先”から“地域”に変わります。退職後に「何をしよう?」「誰と過ごそう?」とならないために、退職前から少しずつ、趣味や町会活動等を通じて、地域との繋がりや仲間づくりに取り組むことをお勧めします。

ちなみに…男性が楽しく地域活動に参加するコツは、『無理をしない』『みんなで楽しむ』『培った技能（特技）を活かす』そして…『(会社の)肩書きを持ち込まない』ことです。

地域の支えあい
助けあいの
活動紹介

富勢地域
ふるさと協議会

富勢地域ふるさと協議会では、昨年の秋から超高齢社会におけるまちづくりの一環として「在宅ケア・医療問題」に目を向けていくこととなり、11月にはそのための「取組み委員会」を立ち上げて、具体的にどのような活動をしていくのかを検討し始めました。12月には町会や地域団体のみなさんにも声をかけ、講演を聴いたり、「地域懇談会」のグループワークでは今後の課題など意見交換もしてきました。



こんなことをはじめています

■ 分かりやすい
広報誌づくり



■ 住民同士の話合いの場づくり



事務局 手塚さんからのメッセージ



私たちの地域も、超高齢の時代を迎えます。病院や高齢者施設も、これからは患者や利用者で飽和状態になっていくはず。住民の健康寿命を少しでも延長させていくこと、地域包括ケアシステムへの理解を深め拡げていくことが、私たち地域組織の差し迫った重要課題だと思っています。